

# あごら

**MINI** (72号)  
1983年4月10日発行 ¥200 千40

- 何でも言える●何でも書けるミニ雑誌〈あごらミニ〉
- 小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉
- あなたの声を待ってます。みんなてつくる〈あごら〉

## 今月のなかみ

＜編集担当・あごら柏＞

表紙のことは	女は女にやさしくしたい	古賀 節子	1
女どうしの//つながり	青木 照子／桑原ちあ子／嶋末 和子		2
座談会「女どうしが連帯したら強いだろうけど」	西岡 文子／辻 さつき／大久保伸子／青木みち子		5
地方選こそ「いのちを守る」とりて			6
3・13改悪阻止集会			6
48団体・厚生省との意見交換会			7
第1回国際女のセミナー			7
あごら運営会議の討論から			8
82年度決算			9
お知らせ	女のつどい・女の講座		10

去年の夏、私は初めて出産したが、大きなおなかを抱えて電車に乗る私に、見も知らないのに、やさしく「とばをかけてくれる女」と、妊娠ということ自体を軽蔑しているかのような冷たい視線をなげかける女がいるのを知った。さらに、やさしいことばをかける女の中には、妊娠してはじめて女の仲間入りができるということに暗にことばに含める女がいることもわかった。

子どもを保育園に預けて働く女に対して、「子どもも仕事も——というのは虫がよすぎる」などと、冷たく言い放つ保母や専業主婦がいると聞く。

姑と嫁、専業主婦と働く女、既婚と未婚、子持ちと子なし……などなど、挙げれば限りないほど、女どうしの対立は古今東西、あふれている。

女は、同性に対する//やさしさ//を、いたい、どこに置き忘れてしまったのだろう。理屈ではわかっていても、感情的に素直になれない——と聞くこともある。女は女に対して、なぜ、感情的にきびしくなってしまう

## 女は、女に やさしくしたい

古賀 節子

のだろうか。考えれば考えるほど不思議だ。自分が嫁の立場で姑のことで苦労すれば、ほかの女も、とりわけ自分の息子の妻は、同じように苦労するのがあたり前だと考えるのだろうか。自分が子育てでノイローゼになりそうな経験をすれば、他の母親たちが自分より楽に子育てをしていると腹立たしいのだろうか。結婚退職した専業主婦は、働く母親が保育園に朝早く子どもを預けて出勤するのを許せないのだろうか。

女どうしが対立したら、喜ぶのは男でしかないだろう。男が女を支配するのは、それは実に都合のよい対立なのだ。差別者は、差別者を互いに対立させて、被差別者であることに気づかせない方法で、支配・差別を続けるものだ。

男社会を男と女の社会にするためには、女どうしが対立なんかしないで、いくらかでも手を結ばなければ——。

ほんの少しでいいから、女は女に、やさしくしたい。「大変なんだから(覚悟しなさい)」ではなくて「がんばろうね」と言いたい。

## 『あごら』発行継続のためにぜひ図書券を

せいっぱいの努力を続けていますが、ハあごらVは苦しい財政です。プレゼントにぜひ図書券を。1枚500円。何枚でもセットにします。

『ミニ』も買って下さい。

1部2000円。10部以上1割引き。20部以上2割引き、お申し込みは事務局へ。

## 受講者募集!

「あごら可能性教室」

## 自立のための心理学

続編が始まります

講師 しま・ようこさん

(フェミニスト心理学者)

開講 4月12日(火)

毎月1回・第2火曜

午後6時30分～8時30分

場所 あごら読書室(地下鉄・丸の内線「新宿御苑前」四谷方面口下車スグ)

費用 35419014

1期6回分で3000円

非会員は 6000円

# 女どうしの「つながり」は—



女と女って対立しかできないのだろうか？

<あごろ柏>

「優しい」おんなたちへ

青木照子

私に子どもが出来たとわかった時から、まわりの女たちが急に優しくなったように感じた。子どもを産むというのは、まるで「女」への仲間入りの条件みたいなものだろうか。それまで、あまり話もしないし、ましてからだの話などしたこともない人まで、ふり向くと息がかかるほど近くについて「私、つわりがひどかったの」と、急に話したりして、何だか不思議で、あっけにとられた。おかげで、それを機に、仕事場の周辺の子持ちの女一人ひとりのつわりの状態や出産の状態を、つぶさに聞くことができて、今では空でも言える。

子どもをはらみ、産んだという事実を経て、私は「こちら側」の女として組みこまれた。

まわりを見わたせば、あたりまえのようにものを言うことさえ決心のいるような状況の中で、あえて「女の連帯」などと言っていない、せっぱつまった気にもなる。男だつて子どもだつて、つながれるものはつながつて、立ち向かわなければならぬほど、相手は巨大なのだ。

けれど、女たちが産む性を共通項として、産む（産んだ）ものと産まぬものが分断させられているありさまを現に体験してみると、せっぱつまつた今の時代状況だからこそ、まずは女が連帯していかなくてはならないのだということを感じさせられる。

子どもが熱を出し早速してゆく私に、「大変ね、うちも、よく熱を出したのよ」と声をかける女が、子どものない女に、「あなたなんか子どもがなくてのんきだから、わからないわね」と同じトーンの声で言う。

狂の集まりのように、さらけ出します。その中で、相手を思いやり、連帯します。働く女の輪は、働くということ、労働組合に結集し、広げる努力が可能です。一冊の本から広がる女の連帯もすばらしいものです。

その時のミゾを丁寧に埋めてゆく作業を、私たちはなまけてはならない。そして、そんな日常的な小さな作業が実を結んでいくのではないだろうか。

でも、働く女と専業主婦とのつながりを、どこに求めたいのでしょうか。のびびきならぬ用事で有給をとった女は、のんびりとテニスをしている女や、長い路上会談が許される女に出会った時、ちょっとときまりが悪いものです。しかし、連帯の輪は広がりたいし、目標を明確にすれば連帯はできる——そう信じています。

輪を広げたい

桑原 ちあ子

「政治と宗教の話は避けていきましよう。とにかく、ぶつかりあうのは、いやだから。」

女にしても、男にしても、話のあう者どうし、言いかえれば、考え方の似かよっている者どうしが集まるのは、あたりまえのことなのだろう。話をしても疲れないし、気持ちよくつきあえるのはいいのだけれど、それをよいことにそのグループの中にこもりがちになつてしまふことがある。ひどい場合には排他的にさえなることもあるのではないだろうか。

でも、ことが起こったとき、私はあるがままの自分をさらけだし、相談し、助けあいたいのです。本音で話しあえる、自分を飾らなくとも偽わらなくとも済む、そんなつながりを私は大事にしたいのです。

私たちはできる限り私や私たちの思いを多くの人たちに伝えなくてはならない。しかし熱っぽく、ある時にはなにげなく自分の思いを伝えようとしても、ほとんどの場合、結果はよくは表われない。

職場の女たちとは、労働条件向上のために団結します。十九人中九人の女たちは、働きやすい職場にするため、よく話しあいます。短い昼休みを利用するのです。生活を、露出

自分の意志で行動すること

嶋末 和子

「いったい何を考えて生きているんだ。もっと自分自身のこと、それに今の社会に目を向ける」と、腹立たしくなることが多い。女どうしのつながりなど、不可能なのではないかと思えるくらい話が通じにくい。にくいどころか全く通じてはいないのだから。

自分の置かれている状況に対して疑問を持ったとしても、思いなおしてもとの生活に、といった人も多いにちがいない。それをまるくおさまるとてもいいのだろうか。

私の知人にはいろいろな種類の女性がいる。専業主婦、仕事を持つ女性、持たない女性、学生……。仕事を持つ女性の中にも、独身、子持ち、既婚、別居中など、さまざまでその一人ひとりがとても個性的だ。自分の考えを持ち、自分の意志で行動する。

女性に限らずこういう人間が増えれば、世の中もっと変わるのではないだろうか。

フェミニズム、反戦・反核……。多くの女性に理解してもらいたいと思う。問題はすべてつながっていること。今、自分や自分の家族だけが無事に暮らせていければいいというのではなく、現在の状況、それに今の子供たちがおとなになった時に、日本は、世界は、地球はどうなっているのかということまで含めて、現在に目を向けてほしいと思う。

## 分断から連帯への模索

西岡 文子

二十代も終わりに近づいた昨今、同年代の女たちの動向がなんとなく気になる。という

のも、二十代の初め頃にはさほど感じなかった個々の生きざまの違いを、たびたび感じるせいもある。

私の年代では結婚・子ども・仕事の三つが大きなネックになっていて、たとえば結婚をしている人としていない人、子どもをもっている人としていない人、仕事をもっている人としていない人といった風に、いつの間にか分かれてしまっている。こうした分け方自体余り気持ちのいいものではないが、こちらが分けなくとも世間のほうで勝手に分けてくれる。私の友人、知人にはとび抜けたエリート女性はいない代わりに、今のこうした女の状況をそっくりと切りとってきたような趣がある。

私は子持ちで共働きをしている。毎日のしがしに追われていくうちに、自分と同じ立場にいる人とはばかり話が通じ合っているような「錯覚」に陥っている自分に気づいて、ゾッとすることがある。それは「話が通じる」という一言で片づいてしまうような類のものだが、ある面ではとても危険なことではないか。

女たちが共に手をつなぐと一いつつ、足の引っぱり合いに終始してしまうのはなぜなのか。「いそがしい」という言葉をまるで免罪符のようにちらつかせつつ、日々を過ごしているうちに、かつて共に遊び、語り合っていた友人との間でずらぬ微妙に感じるこの「ズレ」をどう埋めていったらいいのか。たとえ反核・反安保となえながら、母として「の」域を出られない女たちもいる。自分の子どもの生命をおびやかすものへの怒りから出発しても、いき着くところはすべての子どもたちへの思いに至らなければ、単なるエゴにすぎなくなるだろう。私が恐れるのはそうしたエ

ゴが再び女たちの中に、新たな分断と差別を生み出していくことなのだ。異なる地点から投げかけられた女たちの思いをどのようにすくい上げていったらいいのだろうか……。

## 「人を支える」ということ

辻 さつき

私たちが何かをやりたいと動きだしたとき、なんと多くのことにからめとられていることだろうか。夫が、子どもが、近所が、夫の働き方が、習慣が、制度が……。ここまで時は仕方がないと思える。ところがなんとも残念なのが同性である。

同じ問題をかかえ、愚痴をこぼしあっていた女たちすら、いざとなるとなかなか支ええないことがある。時とすると互いに傷つけあおうとする。そしてすぐ傷ついてしまう。

私たちが集まって何かをやろうとするとき、内部での葛藤をよく見聞きする。私自身もめこの中心になってしまったり巻き込まれてしまったりもする。しかし葛藤がないということはありえないと思うし、葛藤がない物事が決まるといえることは不自然ではないだろうか。大きな問題になればなるほど。でもこの葛藤で私たちはすぐ傷ついてしまう。そしてそんな時、決まって「女だから……」という嘆息がでてくる。男の人たちだって、ずいぶん陰湿な争いをやっている。そう腹立たしく思いながらも「女だから」を打ち消していく。

主婦の場にいるせいかもしれないが、あま

りにも多くこういったことに出会う。

どういう約束や経過で来たかを考えずに物事をこちゃこちゃにしてしまったり、争点をはっきりさせようというふうにはならなくて、そのうちに実にあさましい言葉がとびかう。「あの人は自分がいなかったからよ」

「あの人は目立ちたいのよ」「彼女はお勉強はよくしているけど人間性がね」……それが時には本当のことであることもあってなんともやりきれない。ひどい時には「仲よし」どうしが同じ意見を言っているうちに、自分たちがいよいよ正しく、相手はいよいよ悪くなっていく。

どうしても関心がこんなに人にばかりいくのだろうか。目的は同じなのに、すぐ相手の人を否定したくなって感情的にどうにもならなくなってしまう。

私たちは問題を問題として考えることがとても難しい。そして「仲よし」が自分たちを守ることでしか互いを支えることができないから、すぐ、人をいやな気持ちにさせる出来事ばかりあふれる。人にはいろいろな面があり、一つの問題にもいろいろな考え方があ

の……。身の回りのゴタゴタを、自分の関わりのへたさをもあわせて考えていると、ある人の「娘として育てられたということを悲しく思う」という言葉が思い出されてくる。母となつてや、「私」として生きていく家庭教育は少ない。公教育の場でも女子に期待を持たない先生たちのなんと多いとか。人に依存する生き方が女の生き方の正統とされてきたのだ。

人に依存し、自分で自分を支えないのをよ

しとされてきた私たちが、今すぐ急に、人を支えるということや、少々葛藤でたやすく傷つかないということができないのも、無理ないのかもしれない。しかし、この状態にとどまるのもこの状態を変えていくのも私たちにかかっているのだ。そして、それは現実から目をそらさずに試行錯誤していく中でしか、出てこないのではないだろうか。

自分で自分を支えることができるようになって、はじめて人とも支えあえるのではないと思う。

## 女同士だから……

大久保 伸子

数年前、外国の夏期学校にいた時のことである。各国から学生たちが語学研修を受けるために集まって来ていた。当然日本人も何人かいた。その中に一人、東大を出て、一流会社に入社し、外地勤務を命じられた男性がいた。正式の勤務にはいる前に、語学ができなくてはどうにもならないので、会社からその語学研修に派遣されてきたのである。エリート意識でコチョコチに自尊心が許さず、いとも誇り高くおし黙っていた。日本人相手には、日本語でよくしゃべった。女性には、結婚して、家事・育児に専念すべきである、という強固な男女分業観を持った人で、当時、結婚していないが、夫を日本に置いて、一人で外国に來ている私のことを「よく御主人が許してくれたものですね。僕だったら自分の妻に

そんなこと絶対に許さないな」と非難した。さて、ある日曜日、バスで山にピクニックに行く日だった。私は親しくなったトルコ人の女の子と一緒に山に登ろう、と約束していた。私は先にバスに乗ってその女の子の席を隣に確保しておいた。そこに件の東大卒エリート男性がやってきて、なんの断わりもなくそこに座ろうとする。私が、同じ日本人である彼のために席を確保しておいた、と頭から信じて疑わないようだった。なんという無神経さ！日本人同士ということとは、思想・信条・価値観の違いを越えるほど強いものだと思っているのか！

「この席は空いていません」

私は怒って言った。二、三回言っても彼は事態が呑み込めないようだった。日本人同士で、日本語で話をして、道中楽しく過ごしたいと考えるのは、彼も私も同じだ、と無邪気に考えている風だった。

トルコ人の女の子が「遅くなっちゃって、ごめんね」とそこにやってきて、初めて彼はわかったようだった。その時の彼のなんともいえない顔！以後、彼は私と口を聞かなくなりました。

「女同士だから助けあおう」とか「女同士だからわかりあえる」とかという言葉を聞く時、私はこのエリート男性との一件を思い出す。同じ日本人同士だからといって、わかりあえるとは限らない。真の意味で助けあえるとは限らない。女同士の場合もまたしかり。今の男性支配社会のからくりをそのまま肯定し利用して生きようとする女性もたくさんいる。玉の輿に乗って、人生を楽に生きようとしている女性から「同じ女同士ですもの」と一緒に茶汲みをさせられそうになったりする。

友達の家に行き、亭主関白の彼女の夫が「おい、ビール」「おい、漬物」と連呼するるとき、友達が「ねえ、ビール持っていってくれ」とビールびんを私に渡したりする。私が彼女の男友達だったら、私にこういう用事を頼んだらうか、と私はビールびんを手にして考える。

「女同士だから」という言葉を聞く度に、私は外国で見知らぬ日本人から気安く肩をたたかれるような、居心地の悪さを感じるのである。

## 連帯できなかったむなしさ

青木 みち子

去年は、私にとって本当にしんどい年でした。働きたい、働き続けたいという自然なことが、どうしてこんなに大変なのでしょう。

私は今年の二月まで約二年五か月の間、パートタイマーとして働いてきました。仕事は社員と同じなのですが、パートタイマーなのです。そのうえ六か月ごとの契約になっていました。

契約は更新され続けてきたのですが、去年の十二月からの再契約をめぐって、会社側から、コンピュータ化と経営の合理化を理由に、一方的に、契約の打ち切りを通告されました。通告後、五か月の間の闘いの末、一応、六か月間、つまり今年の五月までの契約が更新され、結着はつきました。この五か月の間、職場での葛藤や、会社側のいやがらせなど、いろいろありました。でも、会社の都合だけ、簡単に、働く権利を奪うことが私には許

せなかったのです。なんのために子どもを預けてまで働いてきたのか、自問しながらの日でした。

女にだって、子どもを育てながら働く権利があると思うから頑張ってきたのです。私ひとりの問題ではない。パートタイマー全体の、ひいては女たち全部の問題だと思って、くじけそうになる心を励まし、自分で自分のお尻をたたきながら、職場に通い続け、契約更新にこぎつけるまで頑張り抜いてきました。

でも、長い暗闇をやっと抜けて、まわりが見えるようになったとき、それまで必死に頑張って胸の中に抱いていた熱い思いが、パチンとはじけ飛んでしまったのです。私ひとりの問題ではない、と思ってきたからこそ頑張ってきたのに、結局、他の人にとって、他の女性たちにとっては関係ない、私ひとりだけの問題でしかなかったということがはつきりわかったのです。私は、いったいなんのために闘うのか、わからなくなってしまうたのです。

結局、私は、今年五月までの契約が切れるのを待たず、二月で退職しました。

今度のことで私は、何か困難にぶつかる度に強くなってゆく自分の姿を発見し、同時に仲間同士の大切さを痛感させられました。仲間づくりができなかった、私の力の弱さも思い知らされました。結局私が、そのまま働き続ける希望を失い退職という道を選んだのも、ついに仲間と連帯できなかったむなしさに、闘い続ける氣力を失ってしまったことにつきると思います。他の人にとっては、私の勝手な思い込みも、一人相撲にすぎなかったのかなと、今でも、深い失望と、むなしさと、女たちへの不信を感じています。

どうしてこんなにも、女どうしバラバラな



のでしよう。  
男は権力や出世欲に縛られ、自分の身を守るためには平気で人を傷つけ、蹴落としてゆき、女は将来の展望も持たず、結婚までのこ

## 座談会

### 「女どうしが連帯したら強いだろうけど」

A—女は昔から、それぞれの立場で分断されてきて、同じ立場の女どうしは話す機会もあるけど、違う立場の女とは、どうも、つながられる場がなくて対立してしまっているね。

B—私は組合活動をやっているけど、同じ職場の女どうしでも、一人の女のがんばりが他の女を励ますことにはならないことが、すでに構造的にあるような気がするの。

C—私の会社の場合、女たちの団結は強い。それは、これまで倒産などの歴史があるからだけど、でも新しい人が入社してきて、この頃では、ちょっと違ってきてるみたい。

団結できるためには、私的な部分まで、さらけ出せないといけないと思うけど、私の職場では割りとそういうことができる。それは、やはり組合闘争の経過があるからじゃないかしら。

B—個的な生活までさらけ出せば、うまくいく可能性はあるけど、その辺はおいてということになる、連帯していくことは難しいわね。例えば、子どもが病気で早く帰りたい、なんてことも素直に言えれば「大変だわね」ということも出てくるのに、その辺をおいといということになる、自分ひとり

しかけのつもりで、こづかい稼ぎのために働くだけ。会社側と争ったり、抗議したりしたくないから、いいように使われてしまっている。資本主義の中で働くことは、なれ合いな

で大変なことを抱えようとするでしょう。だから、抱えていない人に対して反発することもあるんじゃないかしら。

A—家庭のことは家庭だけの問題であって外に出すべきではない、という風潮があるでしょ。

C—仕事を続けようと思うと、自分の生活をさらけ出さなければできない。それも、自分だけが出すのではなく、まわりにも出さなければいけない。

B—私も、もう自分はこれだけなんだ、何を言われてもいい、というふうになってから楽になった部分があるわ。

A—女が目覚める、というか、居直らなきゃダメね。

B—うちの子は保育園に行ってるけど、保母さんは、保母さんという仕事をやっていながら、保育園に子どもをあずけるのは、かわいそうという考え方を持っているみたいね。

C—うちも、朝七時から夕方七時までの長時間保育だったけど、すごくかわいそうだと思われたみたい。

## 出席者

A—31歳 子ども一人(0歳) 編集業  
B—32歳 子ども一人(2歳) 公務員  
C—46歳 子ども二人(9、13歳) 会社員

がら、うまくやってゆくか、お互いに傷つけ合いながら生きてゆくことなのかもしれないとも思います。

もうこれ以上エネルギーや時間の消耗はし

### 「女どうしが強いだろうけど」

A—保母さんというのは、働く母親の犠牲になっていくという考え方があって、実は保母さんも働く女性なのだから、そういうふうには思えば相手のことも思いやれるはずだけど。お互いにね。

B—完全な母親を求める保母さんと、完全な保母さんを求める母親とが対立するのよね。足の引っ張り合いよね。これが共闘できたら強いだろうにね。

A—女どうしが結束すると強いでしょうね。

B—この頃では、少しずつだけど、全体的な流れの中では女どうしが励ましあえる関係が出てきているようにも思える。

編集後記にかえて

女どうしが集まって何かをやろうとするとき、まず頭を悩まさないといけないのは「みんなの都合」である。集まる日時を決めるにも、なかなかスムーズにはいかない。

女の場合には、男以上に「都合」が幅をきかせる。それは、ひとつには、女には自分自身の都合のほかに、家事・育児の都合がついてまわるからだろう。自分が都合よくても「子どもが熱を出して」ということは、よくある。

そして、もうひとつ、女自身が家事・育児の都合を自分自身の都合にすりかえてしまいうことがあるのではないだろうか。言い換えれば、家事・育児の都合が、ちょうどいい言い訳になってしまおうというのだ。電車で乗って一日がかりで出掛けるよりは家のそうじをしているほうが、議論をするよりケチを焼くことのほうが、何んともなく気安いのでは確かだ。

でも、社会性に欠けると言われる女が、さらに社会から逃げていてはどうしようもない。しんどい思いをしても、自らの意志で外へ出て行かなければ何も始まりはしない。

殊に、自分をとり囲む状況を変えたいと思うなら、なおさらのことだ。

(古賀)

たくない。私にとっては聞い続けることはもはや時間の無駄にしか思えなくなってしまうのです。収入の不安はありますが、新しい道を歩き始めようと思います。

A—戦争への道を許さない女たちの会が二年ちょっと前に出来たけど、反戦というこ

とでは割り切れてくると思う。でも、毎日の生活では、なかなか手は結べないみたいね。

C—日常の職場とか近所とかで、女どうしが結束するのは、難しいわね。特に近所なんか、働いている人と専業主婦では時間帯も違

うから、会うことすらないという感じね。

B—立場が違いうにしろ同じ立場にしろ、女どうしの対立関係をつくるのは、体制側の策

略なんだから、女どうしは手をつながなきゃと思うんだけど。

A—自分の立場だけで考えるんじゃないで、もっと広い視野に立つべきね。

# 地方選こそ「いのちを守る」とりで

## 優生保護法改「正」案上程阻止に思う――

注目の優生保護法は、ついに上程阻止に成功。全国的に盛り上がった運動の力を感じました。

それにつけても、地方議会の賛成決議99、反対55という数字の重みを考えずにはいられません。地方議会によっては、革新系の議員さえ、何が決議されたのかわからないままに改正案が決議されていたという例も数多くあり、「何かが決議され」、それが「国民的コンセンサスになっていく」ことの恐ろしさを痛感しました。私たちはつい、「政治は誰かがやってくれるもの」と考えがちですが、政治、それも草の根レベルの政治こそ、いのちを守ることに直結していくことを、改めて学びました。

ことしの統一地方選は、一般に冷えてきていると言われますが、改「正」推進派（それはまた憲法改悪派でもあります）が多数を占めれば、またまたもろもろの改悪案が再浮上することは火を見るよりも明らかです。できるかぎり周囲にも働きかけて、今度の選挙の意義を訴えていきましよう。後になって、どんなに深く後悔しても、取り返しをつかないことにならないように――。

東村山市議選に山本かなえさん

相模原市議選には木村徳栄さん

優生保護法のいきさつを見ても、地方議会に女の議員が少ないことが、私たちの生活に

どんなに影響しているか、よくわかります。4年前、△あごろ△Vが中心になって推し出した東村山の山本かなえさんは、ことが2期目、また前回惜敗したグリーンピースの木村徳栄さんは改めてチャレンジします。両市の友人、知人に、ぜひハガキ1枚でも書いて知らせてください。

## □阻止をかちとった2000人の熱気

### 3・13、雨をついて女たちのデモ□

3月13日、荒れ狂う風雨をものともせず、全国から、優生保護法、堕胎罪撤廃を願う2千人を超える女たち男たちが、東京・代々木公園に集まった。各地で改悪阻止・撤廃運動を繰り広げている人々と広く交流し、連帯を深めていくことで、運動を高め、堀り下げ、広げていこうという熱い想いが会場にあふれた。

「国がセックスまで世話焼くとはせからしか。堕胎罪をぶつちぎり、優生思想をなぎたおそう。九州女も一緒に頑張るばい」との、あごろ九州からの激励電報に湧き、「女の性と障害者の性と生を抹殺する優生保護法を許さない」「改悪が阻止されても優生保護法がある限り安心はできない。息長く、すべての差別をなくすまで連帯して闘おう」「私の人生は私が決めた。国家の性の管理に反対しよう」などのアピールには色とりどりの傘を



▲色とりどりの2千のカサで埋めつくされた会場

雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ…▶  
ひたすらデモ行進

## 壁紙の貼替

色柄豊富・経済的・かんたんな施工・復元可能。最も手軽で成果の大きい改装法です。

## ふすま・障子の貼替

やわらかさと落ちつきとやさしさ――ふすまはいいなと見なおすてきな柄があります。一度ごらん下さい。

## カーペット・クッションフロア

水まわり、台所・トイレ・土間・洗面にはクッションフロアが最適。色柄共多数あり。

## カーテン・ブラインド

カラフルなブラインドは楽しく、シャープでモダン。お風呂用のバス・ブラインドもあります。

室内装飾

かぐら工房

東京都小平市花小金井1-7-18 〒187  
0424-62-8971

振って応え、カンパ要請には、//手がかじかんでお財布がつかめない//と笑いながらポケットをさぐった。

「スイス・オーストラリア・スウェーデンなど各国からの支援メッセージ、各界・各団体からのアピールのあと、改悪案の国会日程阻止、憲法改悪反対、優生思想に基づく優生保護法の撤廃と刑法堕胎罪の撤廃を決議して、参加者は明治公園までの約3キロ、元気がいい。

## 48 団体、厚生省との意見交換会開催(3月7日)

生課長野崎貞彦氏、他1名。

優生保護法改正問題について厚生省との意見交換会が、去る3月7日(月)午後、参議院議員会館で行なわれた。会議室2つを使つての会場はかなり広かったが、主催者である国際婦人年日本大会の決議を実現するため加盟の会で、ハあくらも加盟している。

意見交換の場では多くの要望や質問が出されたが、その対応は必ずしも歯切れのいいものではなく、釈然としない感じが残った。たとえば、一部のマスコミでは今国会には提出しないと報じているが、これは厚生省の見解か。改正法案の提出期限は3月11日とも15日とも聞いているが、どちらが本当か。という問いに対し、提出期限外でも提出できるので、今国会に提出する方向で検討している、との

◆ハ優生保護法改悪に反対する三多摩女たちの会・くにたちVは昨年12月の国立市議会に改悪反対の陳情書を提出、改悪反対決議を上げさせることができた。この経緯をぜひ多くの人に知ってほしい、役立ててほしいと、このパンフ「優生保護法改悪阻止」をつくりました。ご希望の方は左記までお申し込みを。(カンパ200円)

〒188 国立市中2-17-37 伴方 寛0425-76-8260

## 掲 示 板

◆ハ優生保護法改悪反対山口県連絡会Vが「許さない!おんな差別と障害者」まつ殺」をつくりました。ぜひ読んでください、あこら事務局にもあります。

〒752 下関市長府松小田本町7-40 森川万智子方(カンパ200円)

◆ハ私たちの男女雇用平等法をつくる会Vのパンフ「女と平等」(300円)ができました。あこら事務局にもあります。

答えた。また、なぜ政府提案なのか、改正案が通れば中絶が減って人口が増えると思ふかという質問には、47年の時も政府提案だったからとの答え。中絶数については減ると思えないと述べていた。

国会開会中ながら数人の反対派の議員が出席しており、国会内での動きについて報告された。改正賛成派の「生命尊重議員連盟」に名を連ねている約300人の議員のうち、本気で改正を進めようとしているのは4人しかいないと、その氏名を公表された。これをうらづけるかのように、国際婦人年連絡会の人たちが、生命尊重議員連盟の世話人を個別訪問して、真意をたずね、改正された場合の弊害や、女性側の意見を述べたところ、かなりの数の議員が、優生保護法のなんたるかも知ら

## ハ第1回V国際女のセミナー

6月17(日)19日、国立婦人教育会館で

在日外国人は年々増加、日本在住のフェミニストもふえました。その組織、I F J (International Feminists in Japan) もつくり、毎月例会が開かれています。しかし、I F Jは、いつも英語だけで討論されるため、英語のできない日本人は参加しないのが残念です。

英語のできる日本人、日本語のできる外国人がなかだちをしあって、英語の全然できない人も気楽に参加できるあたたかな交流の場をつくらうと、I F JとハあくらVの共催で、第1回国際女のセミナーを開くことにしました。6月17日(金)の夕方から19日(日)の午後まで(2月号既報5月

ず、改正後のことなど考えてもみなかったとすることで、あらためてことの重大さを知り、「自分の態度を考えてみる」と言われたとの報告があった。また、差別撤廃条約との関係について、外務省では抵触しないと判断している、との報告もされた。

その他、会場からの意見として、①現状では性教育が不十分であり、殊に男子の性衝動などについては全く教育がなされていないので、性教育の充実のほうが先である。②女性には中絶を好んでしているのではない、安心してこどもを産める社会の実現が先ではないか。③堕胎罪は女性だけが問われることであり、女性に対する差別である、などの意見が多数出された。

27日(土)29日は変更)心ひらいて語り合おうという趣向です。土曜の午後、メインスピーカー「避妊と中絶」があるほか、次のような分科会が予定されています。ヨガ、合気道などにも希望者は参加できます。会場の都合がありますので、ご希望の方はお早めにお申し込みを。分科会の種目についてもアイディアをお寄せください。(参加費3000円、宿泊費1泊1500円、ほか交通費・食費を自弁)

◆「分科会」◆中絶◆避妊◆自立◆女と雇用◆女と法律◆フェミニズムと平和◆同性愛とフェミニズム◆強姦と暴行◆女の文化を創る◆女の売買◆女と霊性

# より多く参加し、より伸びやかに活動するために

## 「あごら」運営会議の討論から

3月号に既報のとおり、83年度第1回運営会議は、2月13日、東京で開かれ、今年度の活動方針、予算・決算などが話し合われました。その内容を具体的に聞いてみました。

＊

Q 去年は10周年記念の集いがあったほか、各地点とも、反戦運動、優生保護法改正「正」反対運動など、活発に展開され、運営委員も事務局も大変だったでしょう。

A 反核軍縮署名も初めて「あごら」独自で集めたり、去年は、かなり活動できたのではないかと思います。それだけに、本誌が反戦・反核運動寄り、日常生活から浮いているといった批判も出てきました。とくに地方の拠点からは最近の「あごら」は売りにくい、という声があがり、今年の路線をどのへんに置くかについでに討論にいちばん時間がさかれました。

Q その結果は？

A 反戦・反核は女性運動の原点なので、従来どおり中心に置くけれども、もう少し身近な問題から出発して、みんながわかりやすい形で考えていこう、というのがだいたいの結論になりました。それにつけても会員全体は何を希望しているのか問い直そうということ、で3月号にアンケートを入れた次第です。そのアンケートの結果を基に、また練り直す予定です。

Q その場合の会員と運営会議と編集会議の関係は？

A 「あごら」は会費によって発行されている雑誌。いわば受注生産の雑誌ですから、会

員の意向が何よりも尊重されます。しかし会員は全国に散在していて、総会もなかなか開きにくい。ため、一応、運営会議で方針を出しています。運営会議には編集会議のメンバーが5、6人参加しており、編集サイドからの意見を出す一方、運営会議の意思（ということ）は会員の意思の集約と考えて（それを汲み）とって編集に反映させるようにしています。

Q 編集会議のメンバーは固定しているのですか？

A 毎号テーマ別に募集しますので、固定はしていません。しかし5、6人は固定的にかかわっており、運営会議にも参加しています。この人たちが、パイプ役になっています。

Q 決算をみると、編集費が少なくなっていますか？

A 市価の3分の1を基準に、参加者に払われています。編集実務の主体を負っているBOCにも、人件費実費の8分の1程度が払われています。

Q そうすると、BOCにかなり依存しているというわけですね。

A 実質的にはそういうことになります。

Q 会員だけでつくるといえるのはむしろでしょうか。

A BOCの職員も全員会員ですから、作業の質としては会員だけでつくられているわけですが、約300ページもある密度の濃い雑誌です。最後の追い込みなどは、かなり労働密度の高いものになりますので、全くのボランティアだけでは、やはりどうしてもむり

ではないでしょうか。

Q 伝え聞くところでは、たとえば「We」の編集部人件費は毎月数十万円払われているとのこと。「あごら」の編集人件費が年間40万円というのは大変なことですね。なんと考えたのでしょうか。

A 編集作業は、いわゆるレイアウトとか校正だけでなく、日常的な取材活動なども必要ですから、率直に言って、固定的な編集作業費をBOCが背負い込んでいくというのは、ABOCVにとってほんとうに大変なこと。

ABOCVは「あごら」Vと精神的には全く一体とはいえない。いつまでもこのままでいいとは思われません。ABOCVの人たちは、経済的な苦しさを負っているからこそ、女の問題をシビアに考えられるし、それが「あごら」の編集にもはね返っているとは言ってくれています。

Q 予算的にどうしてもむりなのでしょうか。

A まあ、決算と予算をよく見てください。

### まだまだ苦しい財政

Q 82年度は、「応トント」だったのですね。A 10周年記念事業費もあり、その他の活動費も一般にふえ、苦しい1年でしたが、基金が多かったため、在庫を加えてなんとかトントンに納まったというところです。何分にも81年度は史上最大の赤字となったため、どんなことがあっても、赤字は出さまいと必死でした。

Q 81年度の赤字250万円は、結局、運営会議のメンバーで負担したのですか。

A 1人最低5万円以上負担しようというところで、19人で189万4600円拠出した。ただ、運営会議メンバーといっても、定職のない人もいますし、それぞれ苦しい状況の中で出したので、拠出金相当額の図書券を代わりに受け取ることにしました。

A それにしても、多い人は1人で何十万円も負担しているわけで、そういう例をつくらと、経済力のない人以外は運営メンバーになれないということになりはしませんか。たしか、運営メンバーの募集条件に、「精神的ならびに経済的責任を負う」とありましたが。

Q このことについては、運営会議でも何度も話し合われ、「経済的責任を負わないで、口先だけで発言することは容易だけれども、ほんとうに経済的責任を負いながら方向性を定めていくことは難しい。この2つは切り離すべきではない」という結論になりました。

ただし、「特定の人だけに責任を負わせてはならない」という発想があったらと思えます。81年度のメンバーの1人である山口里子さんは、「自分はこれだけの額の図書券を引き受けたけれども、あごらVをほんとうにみんなのあごらVにするために、ぜひ大勢で引き受けてほしい」とハ札幌Vの例会で発言したところ、思いがけずたくさんの方が引き受けてくださったということです。82年度は幸いにして個人負担なしですみました。が、もし赤字が発生したときはどうするか、さらに討論を深めたいと思います。ご意見のある方は、どしどしお手紙なりお電話なり、ください。

Q 81年度に赤字が発生した主な理由はなん



	81 年度決算	82 年度決算	83 年度予算
<b>【収入の部】</b>			
会費	87,095	719,820	
前年分	2,191,940	4,030,193	
本年分	367,700	1,295,375	
（会費）	(2,646,735)	(6,045,388)	
（本著）	3,702,139	2,388,017	6,000,000
（図便）	750,000	450,000	2,800,000
（手託）	5,910	18,680	450,000
（委託）	—	353,963	20,000
（取託）	—	88,750	700,000
（取託）	—	4,300	100,000
（取託）	10,000	13,206	50,000
（取託）	210,127	230,062	10,000
（取託）	424,500	199,355	200,000
（取託）	30,500	57,100	300,000
（取託）	—	18,260	50,000
（取託）	80,000	112,800	18,000
（取託）	40,510	5,200	350,000
（取託）	—	686,176	100,000
（取託）	5,130	3,675	—
（取託）	10,010	6,750	3,000
（取託）	14,025	4,976	2,000
（取託）	960	4,745	3,000
<b>収入計</b>	<b>7,930,546</b>	<b>10,691,403</b>	<b>11,159,000</b>
<b>【支出の部】</b>			
印刷費	3,632,254	3,420,144	3,400,000
印刷費	1,087,427	419,184	600,000
印刷費	838,025	1,530,902	1,200,000
印刷費	792,420	659,416	850,000
印刷費	196,860	655,350	200,000
印刷費	764,410	553,330	600,000
印刷費	357,415	474,090	500,000
印刷費	14,900	—	—
印刷費	1,796,950	1,500,000	1,500,000
印刷費	215,600	222,190	80,000
印刷費	231,760	179,385	200,000
印刷費	142,585	161,810	180,000
印刷費	91,970	152,970	150,000
印刷費	195,750	227,330	250,000
印刷費	203,980	98,660	150,000
印刷費	840,000	840,000	840,000
印刷費	149,700	144,000	144,000
印刷費	38,300	48,780	40,000
印刷費	2,270	6,000	5,000
印刷費	21,240	26,695	30,000
印刷費	23,690	20,000	25,000
印刷費	—	—	—
印刷費	180,000	180,000	180,000
印刷費	10,600	22,141	30,000
印刷費	—	830,749	—
印刷費	—	5,210	5,000
印刷費	200	—	—
印刷費	4,050	3,100	—
<b>支出計</b>	<b>11,832,356</b>	<b>12,381,436</b>	<b>11,159,000</b>
<b>収支差引</b>	<b>△ 3,901,810</b>	<b>△ 1,690,033</b>	<b>0</b>
期首	3,377,234	4,424,640	6,734,640
期末	4,424,640	6,734,640	—
（差引）	(1,047,406)	(2,310,000)	—
運営	1,894,460	—	—
委員	959,944	619,967	—
期繰	△ 5,724,054	△ 6,683,998	△ 6,064,031
期繰	△ 6,683,998	△ 6,064,031	—
前当期繰越	8,502,428	8,608,428	—
当期繰越	106,000	804,000	—
次期繰越	8,608,428	9,412,428	—
当期反核	—	417,829	—
次期反核	—	302,328	—
次期反核	—	115,501	—

注)

- ・本誌印刷費は、＜あごろ＞が必要とする部数（81年度は2,500部、82年度は2,600部）を＜あごろ＞が負担。それを超える部数は＜BOC＞負担。
- ・＜BOC＞は、＜あごろ＞が必要とする部数を超えて印刷した部数の定価の10%を＜あごろ＞に著作権料として支払う。（81年度は75万円、82年度は45万円）
- ・＜BOC＞は、書店経由売上げから印刷原価を引いた残額の50%を＜あごろ＞に支払う。
- ・広告費、書店関係販売費は＜BOC＞の負担とする。＜あごろ＞は、＜BOC＞に、販売費として超過売上げの15%を支払う。
- ・反核カンパは別途会計とする。

でしようか。

A ごらんのように、会費収入が少なかつたことが大きな原因だと思えます。このため、82年度は、とにかく会費がきちんと入るよう全力を注ぎました。年間で600万円を越えたのは、今度が初めてで、ありがたいことだと思っています。一方、支出のほうは、人件費を月額に12万5000円におさえるなど、できるかぎり出費をおさえたが、活動も拡大したため、交通費、通信費などがふえました。10周年記念事業費もあり、バランスとしては、年額80万円にのぼった基金を繰り越して、やっと……というところです。

Q とすると、83年度予算も、かなりさびしいわけですね。

A はい、支出を前年より百万円抑えました。Q 『あごろ』をもっと大衆版にして、たくさん売ったらどうでしょう。

A それも議題にのぼりましたが、それよりも、会員や読友（定期購読者）をふやすことのほうが、やはり本筋ではないかという結論になりました。83年度は、一応、会員1200人を目標に呼びかけることにしました。

Q 現在の会員数が820人ですか。すると約5割増しということですね。

A それくらいは達成できるのではないかと。という以上に、ぜひとも達成しよう……と。

Q へあごろVの名前さえ知らない人もまだまだ多いのだし、名前は知っていても、本を見たことがないという人も多いし、ダメと

思っても、最低3人には声をかけることを今年の活動として、みんなで実行したいです。

A 地域の図書館や学校図書館にも、ぜひ声をかけていただきたいと思います。住民やPTAの希望として出すと、かなり聞き入れていただけるようです。

Q へあごろVの運動の中心は、雑誌『あごろ』の発行にあるわけですから、資金活動は本当に重要ですね。『あごろ』続刊の陰に大きな苦勞があることを、もっともっとみんなが知る必要がありますね。

A 精神的・経済的な負担をみんなで頑ち合

うとき、へあごろVがほんとうにみんなの力になっていくと思います。経理の内容はすべてガラスばりですので、いつでも閲覧していただけます。

83年度は「いのちを守る」をテーマに

Q ことしの活動方針は……。

A 例年どおり雑誌『あごろ』の発行を軸に情報活動を行なうこと、ことしのメイン・テーマは「いのちを守る」にすることなどが決まりました。テーマの消化の仕方は、わかりやすいものにするのが条件です。

そのほか、会員・読友の拡大、優生保護法と堕胎罪の撤廃へ向けての活動などが年間目標にあげられました。これも、ご意見をどうも

# 〈女のつどい・女の講座〉

日 時	テ	マ	会 場
4月1日(金)～13日(水)	松本路子写真展「肖像・ニューヨークの女たち」		スタジオバルコ「VIEW」(渋谷)
10日(日)11:00～16:00	あごろ京都例会		阿部宅 075-531-3089
14:00～17:00	あごろ九州例会		福岡市立婦人会館
12日(火)18:30～	あごろ可能性教室「自立の心理学」しま・ようこ		あごろ読書室
13日(水)18:30～21:00	あごろ札幌例会		喫茶のあ 011-511-1377
17日(日)11:30～15:00	あごろ大阪例会		鈴木宅
13:30～15:00	湘南あごろを読む会		大船公民館 0467-45-6131
20日(水)13:00～15:00	「個人年金の利用法」徳永三千枝 高齢化社会をよくなる女性の会1千円		新宿区婦人情報センター 03-341-0801
23日(土)18:30～21:00	あごろ九州例会		福岡市立婦人会館
19:00～20:00	あごろ武蔵野例会		かわら版事務所
24日(日)13:00～16:00	日本女性学研究会例会「保育所保育」岩堂美智子	06-772-0061 (要田)	大阪市立婦人会館
25日(月)11:00～13:00	あごろ新宿例会		あごろ読書室 03-354-9014
13:00～16:00	「軍備拡大が経済に及ぼす悪影響」田中直毅 草の実会平和問題研究グループ 03-386-6970 (斉藤)		中野商工会館大会議室(中野駅北口)
26日(火)10:00～	あごろ京都例会		イソダ、コーヒー
28日(木)10:00～12:30	あごろ東海例会		名古屋婦人会館
5月5日(祝)	戦争への道を許さない女たちの集会		未定
11日(水)13:00～15:00	「女性に身近な税金対策」清水和子 高齢化社会をよくなる女性の会		新宿区婦人情報センター

## 埼玉地区の拠点連絡人を募集します

△あごろ浦和Vの連絡人、山中さんが、個人的な事情で連絡人が無理になりました。現在の△浦和Vの常連には、連絡人を引き受けられる人がいませんが、このまま△浦和Vの灯を消すのも残念です。  
お引き受けいただける方、至急事務局までご連絡ください。  
浦和在住の方でなくても、広く埼玉県下の方なら、どなたでも歓迎。この際△あごろ埼玉Vまたは△あごろ北関東Vと名称を変えてもいいと思いますが。

(△あごろ浦和V有志)

## 仙台の連絡人が変わりました

△あごろ仙台V発足以前の準備段階から気長に育ててくださった三船さんが退かれ、山内満貴子さんが新しい連絡人になりました。  
連絡先は下記の「各地のあごろ連絡先」をごらん下さい。

## 2月分会費基金受入状況

- 会費170人 832,000円
- 基金15人 37,000円
- 新入会員12人(東京3、福岡2、宇佐・堺・岩見沢・泉・北九州・長崎・豊中・各1)
- 3月23日現在、83年分会費納入者は、615人、84年分31人です。83年分未納の方はなるべくお早めをお願いします。半期ずつでもかまいません。

## 訂正

ミニ3月号5ページ3段目、菅原さんの文中、8行目、六十か所は、百六十の間違いでした。おわびして訂正します。

## 各地のあごろ連絡先

- △あごろ旭川  
・旭川市神楽岡1条5丁目3 田代慶子  
・0166-6556237 078-111
- △あごろ札幌  
・札幌市西区琴似1条6丁目グランドハイイツ琴似408号 細田英理子  
・011-66442927 06-3
- △あごろ仙台  
・仙台市八幡2-13-40 山内満貴子  
・0222-75544655 98-2
- △あごろ浦和  
(連絡人募集中)

- △あごろ柏  
・柏市豊四季台3-1-68 古賀節子  
・0471-456724 2277
- △あごろ北東京  
・豊島区東池袋1-45-11 メゾン金子202  
・03-98551330 08 志賀由美子  
・03-98551330 08 志賀由美子
- △あごろ武蔵野  
・小平市小川町1-763 86 丹羽雅代  
・0423-4336749 187
- △あごろ京王  
・調布市仙川3-12-32 福井浅子  
・03-3087871 182
- △あごろ神奈川  
・川崎市多摩区東生田2-12 森山方沼田千恵子  
・044-993339079 2214
- △あごろ東海  
・愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘1-12-9 伊藤汎美  
・05613992386 470101
- △あごろ京都  
・京都市左京区一乗寺薬田町56の1 塚崎美和子  
・075-79144623 606
- △あごろ大阪  
・茨木市西駅前町10-323 遠藤由美  
・07262333495 567
- △あごろ九州  
・福岡市西区笹丘2-4-6 小島豊子  
・092-52117624 810